

伊達騒動の幕引き

仙台市博物館 学芸普及室長 水野 沙織

第10回

伊達騒動のクライマックス

寛文二年（一六七二）三月二十七日、幕府大老酒井忠清邸を舞台に奉行の原田宗輔が乱心して一門の伊達宗重を殺害し、奉行の柴田朝意、連絡係の蜂屋可広、そして原田の四人が死亡する未曾有の大事件が起きました。

江戸市中の関心を集めたこの事件は、幕府によって当事者間の私的なけんかとして処理され、仙台藩の取り潰しは免れましたが、残された事件の関係者はどうなったのでしょうか。

刃傷事件の後始末

刃傷事件で死亡した伊達宗重・柴田・原田の家臣たちはすぐに帰国を命じられました。家臣同士が衝突しないように出発日をずらして、ルートも別々にするよう調整しています。

刃傷事件の起きた酒井邸で唯一生き残った奉行の古内義如は、酒井邸からそのまま宇和島藩邸に入りました。身の安全を守るためにも、原田の縁者や家来たちがいる仙台藩邸には戻りたくなかったのです。古内は宇和島藩邸から頻繁に書状

をやりとりし、藩務や幕府との交渉、事後処理を行いました。

また、四月七日、幕府から関係者の処分について相談を受けた古内は、後見人の伊達宗勝や原田に重用された小姓頭の渡辺義俊、目付の今村安長らを「大悪人」として挙げ、厳しい処分を求めています。残りの関係者についても罪の軽重を告発し、古内が悪人と見る人たちが他にもたくさんいると明かしています。古内は関係者の処分が決まる四月一五日まで藩邸には戻りませんでした。

藩内の混乱を招いた原因として、後見人の伊達宗勝は高知藩、宗勝の息子・宗興も小倉藩にお預けとなり宗勝の家は断絶となりました。同じく後見人の田村宗良はその責任を十分に果たしていなかったことを理由に閉門（監禁）の処分を受けました。

生前の宗重からも訴えられ、古内からも「大悪人」と名指しされた渡辺と今村は、それぞれ伊予吉田藩と宇和島藩にお預けとなりました。しかし、渡辺は断食して宇和島には行かずに江戸で餓死したそうです。そして、国元の船岡（柴田町）にいた原田の息子四人は親類に預けられた後、

切腹を命じられ、嫡子・宗誠の幼い2人の息子まで処刑されました。原田の母も断食して餓死し、こうして原田家も断絶したのです。

仙台藩の再出発

幕府からお咎めのなかった4代藩主伊達綱村には後見人は置かれず、政宗の孫にあたる宇和島藩主伊達宗利と、綱村のいとこにあたる柳川藩主の立花鑑虎が相談役となりました。仙台藩は奉行中心の政治体制に変わったのです。

その後、幕府から派遣されていた監視役の国目付も延宝二年（一六七四）に廃止され、一六歳になった綱村は、この頃から自ら政治を執るようになります。



伊達騒動の事後処理にあたった古内義如らの文書を納めた通称「伊達の黒箱」（仙台市博物館蔵）

仙台市博物館再開館記念祭 企画展

こりやめでたい

おめでたいしるしを表した資料や縁起物などを、体験や遊びとともにお楽しみいただける記念祭です！

4月2日(火)～5月26日(日)

【開館時間】9:00～16:45 (入館は16:15まで)

【休館日】毎週月曜日 (4/29、5/6は開館)、5/7(火)

【観覧料】一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円

※各種割引料金については、ホームページでご確認ください

資料画像：布袋置物(仙台市博物館蔵)

最新情報は、博物館ホームページでご案内しています

お問い合わせ 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地 (仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074 9:00-16:45

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索

▶博物館X(旧ツイッター) @sendai_shihaku